

# 男性保育士として仕事を続ける —— 在学生・卒業生・現役男性保育士のワークショップ ——

中 田 奈 月      前 迫 ゆ り

## A Viewpoint on the Work Continuation of Male Childcare Workers —— Report of a Workshop for College Students, Graduates and Male Childcare Workers ——

Natsuki NAKATA      Yuri MAESAKO

本報告は、2005年1月に学生の授業成果報告と地域交流を目的として開催された「第3回奈良佐保短期大学学生展」で、著者が企画したワークショップ「男性保育者<sup>1)</sup>の妄想と現実」の全容を記録したものである。

本学は奈良県で男子学生を受け入れる数少ない保育士養成校であり、男子学生は全体の4割を占める。しかし奈良県の男性保育士の比率は保育士全体の2%にすぎず、男性を社会に送り出す保育士養成校としては課題も多い。また本学は男女共学になって4年目であり、卒業生や在学生は就職や職業継続について悩みを多く抱えている。保育者養成校としてよりよい子育て環境を整えるために、まずは人材を育成し、職業継続を促すことが重要である。本ワークショップは、保育士養成校は在学生や卒業生に対して、保育士として長く働く先輩の姿を見、話を聞く機会を与える必要があるという視点から企画された。ワークショップでは現役の学外男性保育士（大阪男性保育者連絡会）、在学生および卒業生との間で活発な議論が展開された。

キーワード：子育て環境づくり、男性保育士、職業継続、ワークショップ、学生展

### 1 ワークショップ企画にあたって

本学は奈良県で男子学生を受け入れる数少ない保育士養成校であり、男子学生は全体の4割を占める。しかし奈良県保育所における男性保育者への社会的評価は低く（資料1）、奈良県の保育者全体の2%にすぎない男性を社会に送り出す保育士養成校としては課題も多い。また本学は男女共学になって4年目であるため第1期生であっても保育者経験4年目であり経験が浅く、卒業生や在学生は就職や職業継続について悩みを多く抱えている。

保育者養成校としてよりよい子育て環境を整えるた

めに、まずは人材を育成し職業継続を促すことが重要になる。そのために保育士養成校は在学生や卒業生に対して、保育士として長く働く先輩の姿を見、話を聞く機会を与えることが必要ではないか。それによって在学生や卒業生は自らの将来像を設定しやすくなるだけでなく、現在抱えている悩みや疑問を先輩に率直にぶつけることで保育士として働くことや働き続けることに対する意識が高まると考えられる。

以上の背景から、2005年1月に学生の授業成果の報告と地域交流を目的にした「第3回奈良佐保短期大学学生展」の企画として、ワークショップ「男性保育

者<sup>1</sup>の妄想と現実」が開催された。この企画は3つの部からなる(資料1)。第1部は基調講演、第2部はパネルディスカッション、第3部はワークショップである。本企画は大阪男性保育者連絡会の方々のご協力を得て実施され、テーマの設定や司会進行等は学生展学生実行委員が中心となって行った。ワークショップ参加者は60名ほどであった。

本報告は、第1部基調講演、第2部パネルディスカッションの内容を記録したものである。第1部では大阪男性保育者連絡会の八尾英隆さん(保育経験18年目)に基調講演をしていただいた(2節)。第2部は基調講演をふまえてパネルディスカッションを実施した(3節)。司会は本学専攻科の山本優司さん、パネラーは、本学卒業生の幸元裕さんと井久保瞳さん(ともに保育士として勤務)、幼児教育科2回生の柳下健さんと杉本久和奈さん、同1回生の粕井拓也さん、現役男性保育士である久田隆司さん(保育士経験12年目)と宮下潤也さん(保育士経験6年目)の8名である。

## 2 基調講演：現役男性保育士の立場から

大阪男保連の八尾です。大阪市内の民間保育園で働いています。今年度から現場を離れて管理職の立場になり、保育の楽しかったこととか良かったなと思えることが改めて見えてくるようになってきました。保育者を目指す学生の皆さんにとって保育の世界ってどんなかなというのが知りたいところだと思うんです。保育は時代とともに色々変わってはきてます。だけど



変わらないものだけここでお話させてもらいたいと思うんです。

保育の世界ってどんなかっていうたら、喜びの多い仕事なんです。例えば営業の仕事を考えてください。仕事の中で喜びってなにかというと、営業成績が伸びていく、自分の給料が上がる、そういうことなんです。ところが保育の仕事は営業成績が上がるわけでもないし売上が上がるわけでもない。そういうことではないんですよね。じゃあ何が喜びなんかっていうた時、それは子どもの成長なんですよ。目の前にいる子どもの成長、昨日まで食べられなかったご飯が食べれるようになったとか、歩けなかった子が歩けるようになったとか、服が着れなかった子が着れるようになったとか、そういうちょっとしたこと、その積み重ねが喜びなんです。保育の仕事っていうのは、そういうことがたくさんあるんです。こんだけ喜びの多い職種っていうのは、なかなか他には見当たらない。

ただ、喜びもありますがその反面シンドイ部分というのも当然あります。何がシンドイっていうたら、子どものことでシンドイやろし、保護者との問題——いろんな保護者、家庭、女の方もおられますし、そういう保護者とどう関わっていくか。それと、特に男性の方でしたら、職場の中で同僚とどう関わっていくか、そういう問題もあると思うんです。保育の仕事っていうのは、ただ単に目の前で見ている子どもの関係だけじゃなくて、保護者や同僚、大人の関係もあるっていうことを考えてもらいたいと思います。多くの方は、どちらかといえば大人の関係で悩むことが多いですよ。同僚とうまくいかへんとか保護者にちょっと言われたとか。でも子どもが助けてくれるやろし、喜びの多い仕事っていうのがあると思います。

皆さんが保育所に実習にいたり就職した時、保育の中で子どもに何を知らせていくのか。ただ単に子どもが好きやから、子どもと遊びたいからこの仕事を選んだって、そりゃスタートはそれでいいですけども現場に入った時にはそれはもう終わったことです。みなさんは目の前にいる子どもに何を教えますか？

保育っていうのは、幼稚園と保育園でするのがある

んですけど、保育園の場合は生活なんですね。生活って一体何なん？ っていうたら食べることであったり寝ることであったり遊ぶことであったりするわけです。そういった生活を子どもに教えていくのが保育園の仕事なんです。生活を知らせていく、そのためには知らせていく先生自身が自分で生活をやっているかどうかっていうこと、これは大きな問題です。例えば実習とか仕事で「これ洗濯機まわしといて」と言われて子どもの服預かりますね。皆さん洗濯機使えますか？ どうやって子どもの服を干しますか？ 服は畳めますか？ 食事をした後、子どもが散らかした後、どうやって掃除をしますか？ 保育の仕事っていうのは直接子どもに関わるだけじゃなくって、雑用っていうたら悪いんですが、合間の仕事の方がたくさんあるわけです。そういったことも仕事の一部であって子どもの大事な生活の一部なんです。そこが本当に求められていることであって大事なことである。そこが、学生さんならできなくても通る世界ですけれども、現場行った時はそれができないと絶対通りません。今、自分で生活していない人は、いい保育者にはきつとなれないと思います。途中からは変われません。今のうちに変わってもらわんと困るんですけど。例えば実習に行ったら失敗したことがあったりした時、何で失敗したんだろうとか、先生に言われてたことがよう分かれへなかったなっていう時、自分の生活をもう一回振り返りかえたらいいと思います。自分で本当の生活をやったのか、身の回りのこと、例えば洗濯とか食事のこととかを自分でやっていたのかな、自分が生活をしたたのかな、ていうとこを考えてもらったらいいと思います。

現場に入ったら1年目であろうとベテランであろうと、同じ仕事をしなければならぬ。それはどの世界に入っても一緒なんです。1年目やから多少は大目に見てもらえることでも、2年目3年目になったらきて当たり前って感覚で仕事見られます。即戦力として期待されているんです。自分が生活をやっていくっていうことが保育に求められていきますから、卒業までの間、学生さんも気合いを入れてやってほしいなと思います。

保育の世界っていうのは子どもと楽しく遊ぶ時間だけじゃなくて、年末に男性保育者が子どもを殴って裁判で訴えられているっていうのが大阪でありましたよね。ああいうことは稀なことではない、これから数多くあるやろなと。子ども殴ったから訴えられるとかいうことではなく、今度は先生が私の子どもに全然関わってくれへんって訴える親が出てくるかもしれない。当然そこは考えとかなあかへん。今までの親なら子ども同士喧嘩になったら「すんませんでしたね」いうて謝ってすんでたことが、今は、それじゃ裁判しなきゃってことになってくる。それだけ保育ってものはどんどん責任が大きくなってきているわけです。保育っていうのは仕事ですから、ただ自分が子ども好きやから遊んでたらええ、では全然通用しない。預ける親御さんにとっては、1年目の先生であろうとベテランの先生であろうと、同じ質の保育を要求していきます。それができてなかったら、親は当然文句を言います。それでうまくいかなかったら、訴えていくというのも当然あると。それはどっか片隅に置いといてもらいたいなと思います。

僕が保育をはじめたきっかけの話をさせてもらいたいと思います。私の場合は20年ほど前、皆さんと同じ世代のときに、何の仕事をしようかが分からんままに、いったん就職するんですけども、そこはやっぱり、営業の売上——お金をもうけることがやっぱり楽しさであったり、喜びであったり、そこを求められていく。それだけっていうのはどうなんだろうと思ったときに、たまたま友達の紹介で保育の世界を知って、売上とか成績とは関係ない世界でやってみようかなと思ったのがきっかけなんです。でも学校に行ったものの、なかなか実際、就職となったらやっぱり難しいんですよ。僕の場合もたまたま人の紹介で就職できたっていう現状です。現実問題として、男性は、それは女性も一緒やと思うんですけども、これから就職するっていうのは難しい問題だと思います。なおかつ、そのなかで10年20年働き続けていくっていうのは、女性も男性ももっとシンドイことやと思います。やっぱり男やったら働く限りは続けていくって思うけど、続けられない職場っていうのがあるんですよ。何年経った

ら肩叩いて早く辞めてくださいって言われる職場というか。

それに保育情勢自体が非常に厳しくなっていく時代になっていきます。一般財源——国からおりてくるお金の問題とかね、厳しくなってくる。就職して働いていくっていうことではこれからは厳しい時代だと思います。本当に保育者になろうと思ったら、やはり個性が必要やし人にないものを自分自身が身につけていかなあかんやろし子どもに何を教えていくかを自分のなかでしっかり掴めてないと、難しいと思います。

保育の世界って、質金的にみると、実際のところはいましたら、そんな高くはないです。真中からちょっと低いくらいです、民間はね、公立は別ですけども、バタバタ倒産するわけでもないし、失業風が吹くってわけではないんですけれども、でもどの企業に行ったら、銀行は潰れていく時代にもなっているし、それは一緒やと思うんです。商売にこうと銀行にこうと会社にこうと、昔やったら、働いたら定年まで働ける、安心して働けるって時代やったけども、今はそういう時代じゃなくなってる。世の中どの職を選んでもそういう不安を抱えていながら仕事をするということでは一緒です。ただ、喜びが多いっていう点では、やはりこの仕事っていうのは他の仕事にはないメリットがあるとは思っています。

あなたが考える男性の役割とはどういうものですかと言われてね、月並みな意見ですが、保育者っていうのは決して親代わりではないから父親代わりでもないし父親母親代わりではなくって、保育者は保育者の立場だと思う。その前段階として、接している子どもの中には、親と接する時間が少ない子どもって実際にいるし、大人を求めている子どももいますから、そこにはしっかりと受け止めてあげたらいいなと思います。

よく、母親代わりになってあげてっていうのを耳にするんですけども、どうなんかな？ 決して母親の代わりは絶対できないわけですよね。現場の保育所っていうのは、長い時間、子どもと先生が接していて、8時間べったり子どもがいて、なのに親が帰ってきたら、親がきたら親の顔見たら、ぽっと変わっていく



でしょ。今までずーっと先生のひざの上でべたべたしてた子が、親の顔見たらふっと先生から離れて男親の方に行くわけです。それは、その状況をみて、親に負けたとかそういうことじゃなくて、保育者は保育者の役割、親は親の役割があって、決して保育者は親の役割ではない、と私は考えるんですよね。そうじゃなかったら役割ってはっきりしませんからね。

保育という仕事のきっかけは子どもが好きだからっていうのは、もう大前提だと思います。嫌いな人はこの世界に入ってきたらダメだと思います。でも実際は好きなだけでは続かないんです。現場に行って1歳ぐらいで、ずーっと人見知りしてる子がいたとしてね、自分に対して、ずーっと人見知りしてわんわん泣いている子がおったと。その子をほんまに好きになれるか？ その子のことを愛することができますか？ 人間やからね、そういうこと難しいんです。だけどそれは愛さなければならないんです。好きな子どもだけを目の前に寄せてるだけではダメ。ただ子どもが好きやってっても自分の好きなタイプの子だけが好きであってそうじゃない子は苦手やなあ、と思うようなことでは、やっぱり仕事として成り立たない。目の前にいる子ども、10人おったら10人全てを同じように愛することができなければプロではない。これは男性も女性も同じやとおもいます。仕事やから好きとか嫌いとか言ってる場合やないんです。

そのためには自分自身の心、気持ちが受け入れる体制をとっとかないとダメです。それはその人本人の人

間性の問題なんです。それは男性であろうと女性であろうと、そんなこと関係ないんです。そんだけ広い心を常に持っていられることができるかどうか、なかなかこれは難しいことなんです。1年目の人でも10年たっても20年たっても30年たっても、決して満足できないジャンルなんです。だからこそ、保育ってというのは奥が深いわけなんです。

保育をやっている、これでいいって言うことは決まてないし、やっててよかった、うまいこといったってことはありますけど、これでええんやってことは絶対無いです。なんでかというたら人間を相手に仕事をしているからです。目の前にいる子どもを相手に仕事をしている。子どもだけでなく、保護者の方も相手に一緒に巻きこんで保育を進めていっている、同僚と仕事一緒にやって同僚の中で認められる仕事をしていく、奥の深いジャンルやということをやっときたいと思います。

不況な世の中で男性の就職率は非常に少ないと思います。ただ、夢を持って希望を持って、男性の方が保育の世界の門を叩いてもらえることを、現場はきっと待っていると思うんです。保育の世界っていうのはどうしても女性中心なんですよね、9割以上が女性ですから、色んなことで考え方が微妙に違ったりとかするわけなんですよね。今、男性と女性の考え方の違う本とか、よく出てますよね。例えば、地図の読めない女性と話を聞かない男性とか。ああいった本とかね。考え方の違いとか、色々解明されてきてるんですけども。実際現場の中で、我々も色々経験してるんです。何でこんなことがあかんのかなとか、これくらいええやんと思うこととか、ぎょうさんあるんです。色んな職場がありますので、それぞれの職場での男性の立場とか違うと思います。ただ私の場合に関して言ってもらったら、入った時私は一人やったんですけども、自分で作っていくしかないんですよ、周りから注目されていく、でも撥ね退けるんじゃないで、意識をしないっていうことが大事なんです。すごく周りの意識ってあると思うんです、男の先生だ、これやってあれやって、って言われると思うんです。実際そこはものすごい重圧やと思います。自分に合うこと

やったらやってもいいと思うけれども自分に合わないことまで言われることもある。男性やという一つの大きな枠で括られていく、いや待ってよ、男性やけど一人一人の誰々という人間やねんというところへんで葛藤があると思うですけれどね。そこらへんは現場に入ってみないと分からへんし、実際にプレッシャーを受けてみないと分からへんことやし。ただそのプレッシャーを撥ね退けるんじゃないで、自分は自分やというところを大事にしていくほうが私は長生きできるんちゃうかな。撥ね退けたって、きっと理解はしてもらえないと思いますから。それだけ圧倒的に女性の多い世界ですから、それ理解してもらうまでには自分が300年くらいかかると思わんと続かない、それくらい長いもんやと思うんで、した方がいいと思うんです。でもそれぞれの職場によって具体的には違います。私なんかの20年の人と5年目の人、彼の立場とはまた違うんですよ。それぞれの職場や年数によって立場が違いますからそういう立場は自分でも作っていかんと仕方がない、そのためにはいろんなこと気にしないで自分自身を磨いていくってことですよね。

久しぶりに奈良にきたんですけど、ある時期ちょくちょく奈良にくることがありましてね、仕事で悩んでるとき。どうしようと思う時にね。皆さん奈良で勉強してはるんですから一度東大寺は見えてはると思うんですけれども、奈良の大仏さん見たら、何であんな大きなものをつくる必要があるのか、何の意味があるのか、あの大きさに。奈良の大仏はもう1000年はあそこ座ってるんでしょ？ 1000年という時間の流れを考えたなら、その間には戦争もあり戦もあり地震もあり色々あるけれども1000年あそこに座っているわけです。その時間の流れを考えたなら今自分が悩んでることというのはたいしたことはないんです。自分がなんぼ頑張ったって100年しか生きられへん、くよくよせず自分自身を見つめて自分自身を高めていく、そこを重点にしてもらいたいなと思います。

### 3 パネル討論

幸元（卒業生）／さきほど、保育者は親代わりではないとおっしゃったところが僕はすごい気になっ

て、僕が実習のとき入ったクラスがたまたま半分くらい母子家庭とか多くて、お父さんも亡くなられた家庭もあって、実習担当の先生からたくさんのことを聞いたんですよ。実習生の中で男性はたまたま僕だけだったんで、実習担当の先生は「やっぱ子どものなかではお父さんの愛を知らない子もいるから、男性は父親という存在として、男性保育者は父親代わりとしてやってもらえるから、とてもありがたい」と言われたんですよ。そここのところはどうか。よろしく願いいたします。

八尾／皆さんはどう思われますか？ 保育っていうのは仕事ですから、厳密に言えば父親代わりでもないし父親じゃないわけなんです。それになんぼ頑張ったって父親にはなれないし父親代わりにもなれない。だからこそ保育者は保育者の部分で一生懸命接しないといけないんですね。保育者は母親代わり父親代わりっていう考えにどうしても陥りがちなのは分かるんですけど、そうすると保育の部分の部分が抜けてくるわけなんです。気持ち的にね。保育者のやらかなあかんことをせずに父親や母親みたいな感じで接する部分に、落とし穴があるんちがうかなと思うんです。

まず保育者は保育者だから。子どもを6時まで保育園で預かって、6時以降は親っていうか。夜まで保育する場合はどこまで保育士が預かんの？ 24時間預からなあかんの？ 16時間なら頑張るけど24時間はちょっと、とかね。

でも親だったら24時間みやなあかんわけです、子どもを。一生じゃないけど、あるところまで責任持つのは親であると。保育者っていうのは決まった時間をきちんとみていく。でも保育者が親代わりって言う感じになれば、じゃあ何時間保育すんの？ 何時間保育すれば満足するの？ それは単に保育者だけの自己満足の世界でしかないと思うんですね。じゃあ子どもにとったらどうなの？ 子どもにとってみたら、保育者は保育者で、親は親なんですね。もちろん父親のような接し方とか受け止め方とか、そういうものを求めていくのは大事なことだと思いますよ。ただ、保育やる側の意識がそこに陥らないほうがいいんじゃないか。

井久保（卒業生）／さっきの話で、保育者に人にないものが必要になってくるっておっしゃっていたんですけど、実際、私はまだ人にないものというより自分の中にどんなものがあるのかが良く分かってないんです。八尾先生やったら人にないどんなものがあるのか、教えていただけませんか。

八尾／それは何でもいいんですわ。元気とかね、虫が好きとかさ。特別な何か、ピアノがうまいとか歌がうまいとか技術的なとこじゃなくて気持ち的なとこなんですね。自分はこういうんで負けないよっていう。人と比べて、あんた、それ人よりもすごいね、って人に言われることじゃなくて、自分の気持ちの中で持っていればいいことだと思うですね。それはやっぱり自信を持つっていうのが大事なことであって、自信ないのに子どもの前に立って、子どもの前では先生という立場ですから。さっき言ったように、子どもに何を教えていくかって言ったら、自分には教えるものがいっぱいある、そう思うのが自信なんですよ。自分はコマ回しできるからじゃあコマ回し教えてたろ、とか、ゲームとかいろんな遊び教えてあげようとか。風作んの上手やかから風教えたろ、とかね。何でもいいと思うんですよ。子どもの前で何かを教えていく、知らせていくということ、そこから自信になっていくと思うんですよ。

柳下（在学生）／先ほど男性に求められる立場という



話があったんですけど、実際にカリスマ保育士とか男性保育士でテレビに出てきたり、いろんなCDを出して、社会的な認知も高まってきていると思うんですけども、そういう特技とか、男性を活かしたことで何か具体的にやられていることとか、教えていただきたいと思います。

久田／男性保育士がCDとか出したりとかね。埼玉の有名な方がテレビ出ておられたりしている方がいて、僕も話とか聞いたりしてますけど、あの方は保育士プラスアルファということをすごく努力されている方ですね。歌を作ったり、次はこういうふうにこういう遊びをしようと考えて新しいものをどんどん作っていき、今までであった手遊びにこういうアレンジをしたらどうですか、みたいな提案ができる。提案をすることでプラスアルファをしてはる。男性の場合、そういうプラスアルファが確かに求められているわけですね。我々男性って少数派なんですよ。その少数派が保育所の中に入っていくとなると、女性と同じやったら別に男じゃなくてもいいんじゃないかとか、そういうところも見られてくるわけですね。

実は僕らが自治体に採用されたのは、自治体が男も採用してみようじゃないかという波にたまたま乗れたからです。実は僕はピアノも非常に苦手です。し歌も苦手なんですよ。だから誕生日やなんかでピアノや歌やったりすると「その先生の時はたまたま試験なかったんやね」って言われるほどとにかく歌とか苦手だったんですけど、でも男の保育者を入れようかという流れに乗って入ることができた。

だから当然、父親代わりというところへんも求められることもあった。女性の保育士さんは男の人が入ってきたら私にないもんがあるんじゃないかっていう、ある意味期待の表れだと思うんですね。でも10年くらいやっていると、そんなに父親代わりってへんは求められないな。クラスを運営している一員だっていう感覚は非常に出てくるんですけども、でも最初のころはやっぱり女性の中での男の役割ってというのは、僕は何をしないといけないのかということをいろいろ考えて、皆さ

る男性保育者が1回は陥ること、身体を使った遊びをしなくちゃいけないんじゃないかとかね、もっと体育遊びしなくちゃいけないんじゃないかとかね。例えば昨日は餅つきをした、今日はダンスパーティをしたとか、力仕事なんかも頼まれたりする。そういうのも期待されてるんじゃないかなと思うんですけど、そういうところに男性は1回は入るんですけど、まあ別にそこまで自分だけでやることもないんじゃないかとも思ったり。1回は期待されるけれども、年数が経ってくると、男性の保育士が女性の中に入っていくということに男性自身も慣れていかないとはいけないんですけど、女性自身が、周りが、男性が保育者の中にいるってことに慣れていく。その過程だと思うんですけど、男性が入ってまだ日が浅い園なんかは男の人はこういうこととして欲しいとかいうのはね。日常茶飯事になってくると、男だからって特に求められるということも無くなってきたかなという実感はありますね。

男性保育者は父親代わりになるかってことは、八尾先生は保育者として接すればいい、それは基本ですけど、でも僕はちょっとはそういう要素もあるかなって。だから僕は逆に、お母さんがいなかった子に対して保育士さんが女性的関わり、ちょっと膝の上に乗せるだけでも子どもがホッとしていくような。当然、父親でも母親でもないですけど人と触れ合う中でちょっとホッとすることがある、そういう母親的要素、父親的要素を子どもは求めているのかなって感じは教育の中で実感としてありますけど。

八尾／久田先生は10年20年やっていたらその中でなじんでくるのかなっていう話。宮下先生はまだ戦っている最中ですので、まあ一度彼の話聞いてあげてください。

宮下／今の保育所に勤めて6年目、丸5年になります。初めて入った時は、もう一人のパートナーの男性保育士、一人やったらきっと萎縮してしまうんじゃないかっていう保育園の配慮から二人一緒に入りました。後になってその時試験してくれた主任先生に聞いたら、採用試験の時に僕のほうが



ちょっと筆記が良かったらしくて、あなたは頭脳担当、でもう一人の人は体育担当みたいな感じで割り振られてたって。僕は大概、保育園——うちは絵画をたくさん取り組んでいるので、その勉強を主にして下さい、みたいな感じで割り振られて。もう一人のパートナーのほうは身体を動かす——南大阪ブロックの私立の保育園が集まって運動会しましょうとかサッカー大会しましょうとか、そういう体育的な取り組みの説明を聞きに行ったりとか準備をしたりという担当に割り振られてたりしたことはありました。そういう保育園関係のことだけではなくて、日常的にも例えば電気を換えるとか、雨どいのあそこ水漏れしてんねんけど直してくれへんみたいなことから、ガーデニング関係、花が何日に花屋さんから届くので植えるためにちょっとここ耕してください、肥料入れて混ぜてくださいとか。多岐にわたりいろんなお仕事を体験させてもらっている、今も最中です。もう一人のパートナーは家の都合で辞めてしまって、今は体育関係も背負いながら、絵の勉強もさせてもらいながら、今はその保育園で毎日子どもとも関わってるわけなんです。

男性保育士、男やからってわけじゃないと思うんです。今度、大運動会っていうのがうちのブロックであるんですけど、そこで男で出てくる人っていうのはやっぱり少なくて女の人が多いっていうのはあるし、男だけが絶対にこんな仕事せなあかんのやって、今まではずっとそう思ってた

んですけど、周りみたら女の人も僕と同じような仕事——各保育園から出てきてその当日の準備を行うっていうのなんもやってはるわけやから、別に僕一人が背負わなくてもいいんやっていうのは少し考えてホッとしてるところではあるんです。

でもやっぱり、これから皆さんが就職されて、まだまだ、ここにも資料にもあるように男性保育士に限って言えば、圧倒的に数が少ないわけでありまして、多分、保育園でもどう扱っていいんか分からへんみたいな保育園もあるとおもうんです。やっぱり保育園の就職が決まっている方に対しては頑張って下さいとしか、僕からは言えないんですけど、自分なりのあり方、さっきお話ありましたけど、自分なりの武器っていうの、本当に気持ち1つでいいです、何か、俺はもう絶対これだけは自信があんねん、歌でもいいし、もちろんピアノがあれば最高の武器やとは思いますが、それだけじゃなくて、俺は絶対に怒ったりせえへんのやとか、子どもには絶対怒らんと、嫌いな物食べさせてやんねんとか、技術じゃなくて、子どもに対する気持ち、情熱、そういうのも1つでも持っていれば保育士としては必ず成功すると。僕は、この6年で、ちょっと1つ結論出たかなあっていうのはあります。なので多分、すごいプレッシャーに負けそうになる時もあるとは思いますが、目指している方も、そのことをひとつ肝に銘じていただいて、何か俺が一番やって思うもんを持って現場に行っていただけたらいいんじゃないかなというのは考えてます。

**粕井（在学生）**／就職する時に試験があるじゃないですか。公立は自治体ごとにテストしたりしてるから男女の差はないと思うんですけど、私立は各園ごとにやってるじゃないですか。その時、男女差ってあるんでしょうか。ピアノとか、男子は甘めにみてもらえとか、男子を入りたいから男子を優遇させたりとか。そういうのを知りたいと思います。

**八尾**／就職は保育所だけでなくどこも男女平等が原則になってるんです。でも私が就職した時、公立は女子のみ、男子はダメでした。男女雇用均等法と



かいろんな問題があって、男子も採れるっていうけれど実際に男子も採るところと採らないところがあります、公立の場合も。採用試験する場合女子のみでは公募はできないんですね。だから保育者っていう形で公募するんですけど、中身的には女子のみで。だから男子を採ろうと思っているところを探して就職試験いかないと、どこでもいいから行ったら、就職ないわけですね。女子、男子採りたいなって思っている保育園と自分がぶつかるかどうかですよ。採ろうと思う気があるかどうか第一ですね。その気がないところになんば行ったら門前払いですから、なんば実技良かったとしても。

あと、さっき、ひとつ技術があればって話したけど、ピアノ、これ、全国共通。ピアノができればどっか就職あります。ちょっとできるレベルでなくて、バラバラーっと弾けたら、これはもう日本全国どこでも就職あります。ただ、男子と女子と比べた場合に、例えば男女同点やったら、どっち採ろうかなーと迷ったとったら経営者側は女子を採ります。それだけ男性というのは女性にプラス何かがあれば勝てないんでよね、就職で。そこは自分にあって人にないものが必要ということですよ。それが第一の目標や。ピアノができるできへんっていうのは本当に差になるから。実際、現場に入ってもできる人とできない人とは、違いますよ。できるほうが絶対得ですから。学生の間に死にものぐるいで練習してるほうが、将来には長く働き続けていけるという結果になるかもしれない。弾けないからだめってことじゃないんですけど、弾けない人は弾ける人の何かを持たなければいけないから。ピアノ弾けないっていうのは1つ武器を無くしてるから、ピアノじゃない武器を何か1つもたなければならない。それを探して見つけて皆に認めてもらおうなんて並大抵のことじゃないから。ピアノってそういう点で一番分かりやすいんですよ。皆が認められやすい。これは一番大きな得になると思います。

それと、実は民間の採用試験については、学校側からの紹介とかあると思うんですけど、いろい

ろ受けてみて、自分は人にはないこういうところをアピールしていきますよとかはっきり言えるってことが大事ですね。民間の場合でしたら経営者の胸三寸ですからね。一般的にどうっていうより、その人がOKですって、その人が気に入るか気にいらへんかだけみたいなのがありますから。そのためには何かに、経営者に分かる何かを1つ持ってる、その人が、ああこの人は輝いてるなって思える何かを持ってることが就職では大事になって思います。

久田／公立も保育所縮小の時代で、採用自体がない方向性に今なっているわけなんですね。民営化とか。私が就職の時に取った方法としましては、北摂の方の自治体はまとめて採用試験があるんですけど、全ての自治体の人事課に用紙をもらいに行って、さりげなく、男性いるんですか、どんなんですか、とか話を聞いた時の答え方によって、受けてもいいよレベルなんか、どうぞ受けて下さいレベルなんか、まあ受けてみたら？レベルなんか、どのくらいかが会話の中で感触的に掴めるかな。ただ公立の場合はいったん保育士として採用しておいて、各保育所に入れずに他の障害者施設において、何年かして保育所の希望を聞きます、みたいな方法もある。いきなり来られると困る、みたいな保育所もあったんで。僕の先輩だと5、6年おいて保育所に回って来はったという方もおられますから。それは各自治体の考え次第ですね。で、男性プラス、ピアノとか保育者としての



技術とか。例えばね、現場入ってからなんですけど、この先生は保護者からの苦情の謝り方がうまいなあっていう先生がいはいはるんですよ。そういうのは保育技術とは関係ないけども、保護者が怒ってきはった時この先生にお願いしたら何とかしてくれはる。そういう保育所の中での役割は非常に需要が高まってくるというので、ちょっとしたこういうことができるというのもひとつのスキルであるっていうことですかね。

幸元（卒業生）／最近、学園前で起きた幼児の事件とかあったじゃないですか。今も災害とか一杯あるし保育中に何が起こるか分からない時代になってきてると思うんですよ。そういう時に、男性だけじゃないと思うんですけど、何かあったときに男性はどういった行動をしたらいいかというのが僕なりに見つけられてないんで、ご意見お聞かせ下さい。

八尾／実際、防犯的な理由で男性を採用するってこともあるんですよ。保育園は世間みんなが女性だけの職場って思ってる、そんな中で日本全国ようあそこに変な奴らへんなって思うくらい、いつ入ってもおかしくない状態なんですよ。例えば遠足なんか行きますよね。夏、遠足行きました、保育園の若い先生が短パンとTシャツで子ども連れてぎょうさん歩いてくんですよ。で、公園に行ったら変なおっさんおるわけでしょ。で、それ見たらそのおっさん何を考えるか、ろくなこと考えないですよ、女子どももはっきり歩いてるわけ

しょ。そこへ一人男がおったら、避けて余所行くわけでしょ。何かしよう思っても別にそこでいたずらせんでも余所の保育園いけばいいから。それだけでもね、本当に効果あるんですよ。保育園の中で男性の声が生るだけね。街の中にいろんな人がいますからね。そういう人が、ああこ男おんねんな、そう思うだけで、防犯面では効果あるん違うかな、と私は思うし、私の職場の園長もそれは言うてますね。だからそれを逆手にとってみたら、男性の方、僕は格闘技できるんですとか犯人きたら戦いますよとか、それは女性には絶対ないことだからすごい武器ですよ。犯人来たら任してくださいとか。それもすごい話ですね。

やはりそういった安全面っていうのは、これからほんとにうるさく言われていくやろな。今、ちょっと薄れてきましたけど、何年か前は保育園の中で暴力がはびこってるん違うんかっていう社会問題になったりしたりね。今、宣伝でありますよね、ビデオついてて、家から親御さんが今子どもどうしてんかなあって見れて。もしあれで親御さんが見た瞬間に子どもが先生になんかされてて、そらもう即裁判ですよ。映像で録画されてるから。

宮下／うちの園やないんですけど、知ってます？<sup>さす</sup>刺股<sup>また</sup>って。大きな二股に分かれて、昔の時代劇で「御用だ御用だ」って犯人とか下手人の動きを止めるやつ。今見直されてきて、槍みたいなやつがあるんですけど、一応防犯の理由で常備しておく。入口から入ってきそうになったらそれでヤアって外に出す、動きを止める、そういうのもあったりします。でもねえ、保育中に必ず自分がその場に居れるわけでもないし、もし地震とかになったら、ゆうても身体1つですし、僕。赤ちゃんやったら二人くらい抱えたらそれで精一杯ですわ。だから入口の確保して確認しながら、こっちに逃げ道があるみたいなことは、いつも考えながらまあ保育はしてたりはするんですけど。

久田／防犯に関して男性がどう働くか。実は10年前の阪神大震災のときに、僕はたまたま自転車通勤で行ける保育所だったんで、地面とか割れてたんで



すけど、とにかく自転車で駆けつけることができて、一番先にいって、確認しましょうっていったんです。まあ、男の人が一番先に駆けつけてきてくれて、これこれこうして下さいって言うだけで私らだいぶん違ったよって、後から言われたんですね。それから、いわゆる変質者とかその辺の防犯に関してですが、保育所は誰かに頼るとか、男の人がいるからその人に頼るっていう形での安全対策しないほうがいいかな。っていうのは、うちのほうで発砲事件があって、実はその日は前から年長組が、自分達が行く小学校の見学に行くっていう訪問散歩日だったんですよね。で、散歩日に、役所の本部から、発砲事件がありました、散歩などの外出は控えるようにっていうファックスが来るわけです。で、所長や主任が「どうしようか、でも前から小学校行きたいって子どもは言ってたしな、でも久田先生行くからな」って。ちょっと待て、発砲事件ですよ。そんな男だからいいって過度な期待をし過ぎですから、僕は「行くの止めませんか」って言って。男がおるから行けるとか過度な期待をするというのは保育所のあり方としてどうか。散歩に行っている間に男の人がいるだけいいという、そうじゃない方法も考えていく。でもまあ就職の時は防犯に対応しますって、たとえ役に立たなくても、防犯をアピールして就職するのは僕はいいと思いますけど。

#### 4 フロアーの在学生からの質問

小畑（在学生）／失礼かもしれないんですけど、皆さん結婚してますか。今、僕ら就職の書類とか見ても初任給しか分からないんですけど、将来家庭を持った時に、家庭を養っていける給料はもらえるんですか。多分男性は全員気になると思うんですけど。

八尾／賃金面に関しては、まあ公務員は別として民間——大阪府内では、民間格差是正ということで、一応国が決めた額プラス、大阪市が独自に、まあゆうたらゲタをはかせてもらってる部分があるんですけど、例えば私、42歳18年目で基本給が本俸30

万。厚生費等抜いてって、だいたい手取りが25万くらいですね、まあボーナスは年間4ヶ月。ですから手取りで60万ずつ位。これはおそらく今後は下がると思います。これ以上上がらないです。単純に言われてるのは、だいたい手取り20万くらいになるん違うかって言われてる。ただ、この額は高いのか低いのかは、一般の業種と比べた場合はどうか、そこはまあ皆さん考えて答え出してもらったらいいやろうと思いますけど。だから、公務員になったらええってことで公務員になるんですけども、今、公務員っていうのは民営化になってますから。例えば東大阪では全園民営化の動き。堺市も全園かな？ ほぼ全園くらい民営化の動きになってるから。いったん就職しても今みたいに保育所配属じゃなくて違うところに配属っていうかたちになるかもしれない。それは時代の流れですから。これがまた時代が変わってくるかもしれない。それは結婚となったら、それは相手の次第ですから。

宮下／賃金面ですか。6年目になりましたけど初任給から1万円上がったか上がってないくらいですね。初任給は手取りで13,4くらいで、ちょっと上がった程度、16くらいですかね。で、やっぱり公立とは違って民間は1つの法人が上からもらったお金を分配して使っていくわけですから、多分これ以上上がることははまずないんじゃないかなあって今は思ってます。大阪は保育士一人に対して出る補助金の額も決まってるんですよね。だいたい17万5千円くらいでしたっけ。年齢にもよるんですけどだいたい目安がその位っていうのがあって、やりがいたくさんある仕事なんですけどお給料もらいながら1つの家庭を築くっていうのんやったら、ちょっとしんどい職業になってる気が……。でも他の仕事とかも今は不況ですし、大変って言ったら大変な職業。でも今の経済状況も見ながらですけど、やっぱりどの仕事もお給料は今は少ないん違うかな。まあ保育士だけが特別低いいうわけでもないと思うんですけど。

結婚観ですか。もしこの仕事を僕自身がずっと続けていくならば、共働きでやって、働くのが好

きで、まあ普通の生活を望むのであれば、いろいろ働きながら空いた時間で旅行に行って、まあめっちゃ贅沢じゃないんやけどこういう余裕があったらいいなあって思うんやったら、女の人は「私、家におるより働きに行く方が好き」みたいな人のほうがいいん違うんかなあ。でも男保連の先輩方には、八尾さんの後輩の方なんですけど、私立で勤めてお父ちゃんのお給料だけでやっておられる方も今後ろにいてはるんですけど、発言、しますか？

喜谷（大阪男保連）／子ども二人います。歳30で、給料19万くらいで。何とかボーナス食いつぶしながらやっています。

宮下／まあ遣り繰りの仕方によってですかね。僕は共働きで働いてくれる人がいるんやったら、そっちのほうがベストかな。もし今いない方やったら、そういう方を探すのも手かしら、と思っております。以上です。

辻（在学生）／保育士の賃金体系ってどうなってるのか分からないんですけど、それは、一般の他の企業と比べて健全な賃金体系を保っているのかっていうのをお聞きしたい。

八尾／公務員は別としまして、今現在は民間の場合、何年たったらなんぼっていう賃金体系があるんです。でもそれが今なくなりつつあるんですね。今までやったら大阪市からもらったお金は園にそのままもらってたんですね、僕んとこはね。ただこれからは園独自で賃金体系をつくる時代になってくるんで、今までとはちょっと変わってくるやろなっているのはありますよね。ただ一般の企業の場合には能力給っていうのがはいってきますから、それが現在、保育の世界、教育の世界では入ってないやろうけど、それがどういう形で入ってくるか分からないけど、能力給が入ってきかかっているのは事実です。ただ、私の職場に関しては休みがとれるとかね。有給が平日に20日間。で、公休が26やと。両方で46日。それはすごい違いますよ。全くないとも多いですから。だから就職する場合にその職場の労働条件も知っておくっていうのは大事。めいっぱい働くとこもあり

ますから。よくあるのは、例えば、保育園って時差出勤してると思うんですよね。8時にはいる人は例えば4時にあがります、最後7時まで残っている人は9時か10時ごろ時差出勤しますよね。

で、若い子が最初に出てきて時間なったら帰るんやけど、7時までベテランさんがおったらベテランさんが帰るまで帰られへんっていう職場は山ほどあります。だから、職場の労働条件、賃金体系、休みとか、就職活動の中で聞いておくっていうのも大事。一般の企業で考えた時に、熱出てかなわん、休ませて下さい、と有給をとるとというのが普通ですよ、例えば、今日奈良に遊びに行きたいから有給とりますわ、課長ハンコお願いって、そんな釣りバカ日誌みたいなことやってる人世の中にいてへんから。ただ私の職場はそういうことができます。ここに来て、長く働き続けていける職場っていうのは、そういうのができるんですね。そこまで選んで就職っていうのは考えて欲しいなって、思います。

小谷（在学生）／さっき、男の一人だと萎縮してしまうから二人採ったとおっしゃってましたよね。僕20年来生きてきて女の人が束になったらはっきりいって怖いんですよ。陰口とかすごいと思うんですよ。実際ほんまのどこ腹割って見たらどうなんですか。

宮下／まあ、陰口ですから。ここ、自分まで来てたらきっと陰口じゃないんですけども、きっと裏では相当言われてたと思いますし今も言われてるかもしれません。でもやっぱり、保育園の配慮としては、初めて男性採るから。保育園の方もどう扱ってええか分かれへん。ま、赤ちゃんが突然来たような感じですよ。どうやって接していったらええんやろ？ 今まではずっと女の人しかおれへんかって珍しく男も採ってみよかと園長が思ったみたいで、園長や保育園側もどう扱ってええか分かれへんし、我々かて初めて行くわけやから手本が全くないわけやからどう動いてええか分かれへん。そん中で一人にさすのは可哀相やからみたいな感じで、二人採ろかっていう経緯はあったみたいです。で、やっぱり女の人は怖いなあっていうの



は同意見ですね。

言ってること違うんですよ、皆の前と裏と。ほんまに、めっちゃ嫌いやって、やっぱりあるじゃないですか。その中でもやっぱり大人ですから一緒に仕事せなあかんけど、すごい楽しそうに話してはるのに、やっぱりあのひと話しあいへんわって言って、えーっ？ あんなに楽しそうに話してたやん、みたいなこともあったりとかして。

僕なんかは工業高校出てたんで、男ばかりやったんです。女の人を間近で見る機会っていうのは中学ぐらいと専門学校ぐらいで、半分男ばかりやったから、そんな中で来てるから。男やったら嫌いな奴とは全く話せへんし、気合う奴やったら、いつまでも話してたりとか話も広がったりとかするんですけど、そういうのは女の人はないんやとか思って。一応は話あわせたりするんやなあ、とか。最初はビックリしたんですけどね、今は楽しみながらね、ああこんななんやって。男と女って違うんやなあとか、人生的には勉強にさせてもらいましたみたいな。まあ違うのは当然なんです。男と女っちゅうのは、参ってしまうてのは正直な意見やと思うし、それでもやっぱり仕事としてやるからには男女関係なく保育の現場に入ったってことなんでそんなに萎縮せず。違いは違いと思って働く、認識していくのがいいんじゃないでしょうか。

久田／5年目の宮下先生と10年目の僕、まあ管理職側の意見は後で聞くと致しまして、僕は12年目に

なったんですけども、ま、確かに最初はいじられ、どうしたらいいのか何をさしたらええのか分からへんという状態の中で、ちょっと気を遣われてたんです。だんだん慣れてくると同じようにやったりしてくる。今は僕12年目になりまして、今は、他の先生とうまくやっていけない先生と、男性が組まされてるのかな、というふうな。つまり女性もどうやら男性の前ではいいカッコするらしくてね、違う姿を見せてくれる。うまく、もめへんような感じになってる。僕も陰口とか女同士の悪口とかいうのも、最初はすごく嫌だとか、まともに真面目に聞いていたんですけども、やっぱり年数経ってくると、非常にうまく聞き流せるようになってくるわけですね。最初の若かりし頃、宮下先生くらいの時やったら何とも嫌なと思っていた会話なんかね。例えば一昨日なんかは、女の先生たちはね、公立ですから年配ばかりなんです。長いこと勤めてはる。うちの保育者でも40代が中心メンバーです。この前なんかもう帝王切開の話で盛りあがった盛りあがった。ああ僕ももうこんな話を一緒に女の人とできるんやな、みたいなところへんで、周りの人も慣れてきたし、僕もそういう話にうまくあわせるようになってきた。周りからの僕の評価っていうのは、久田君ずいぶん口がうまくなったね、うまくあわせるようになったね、って。それは多分年数によるのかもしれない。じゃ、次は管理職の立場からの発言を、八尾先生お願いします。

八尾／このテーマっていうのは、男性保育者の最初にぶつかるテーマなんですよ。さっきも話したように保育っていうのは子どもと関わるだけじゃなくて職員との問題もあるし保護者との問題もあるし。

結論から言うたら、そこに対応できない人っていうのは続かないんです。そこは人間性、人間関係を自分で克服できる、解決していける技術っていうのが必要です。これは、人と関わる仕事に入る人には、必要不可欠な技術なんです。例えば設計だけを担当してたりとかで、あんまし人と関わらない仕事の人はそういう技術を持たなくてもいい

いんやけど、人と関わる仕事、特に保育の仕事をする人にとっては、子どもとの関係、大人との関係、保護者との関係、そこをうまく渡り歩く……結論から言ったら渡り歩くなんですよ。まともに受け止めたら潰れるから、うまくかわしながら渡り歩く、そこがひとつの長く続けていく技術ですよ。そこは、やはりいろんな人と関わっていく。苦手な人やなと思う人は誰しもある、だけどそこはその人自身が人間の度量の大ききさでカバーしていく、自分自身が大きくなっていくかな仕方ないし。一人一人相手に合わせていくのも大変だし。それは人間性の問題になってくるやろし。若いうちはそこにどうしてもそこに関わるけれども、今のうちからそういう技術を身につけていろんな人と関わっておく、いろんな友達を増やしておくっていうのは学生時代に必要なことかなと思います。

あと、管理職側から言わせてもらったら、男性を採用するというメリットの一つの中に、女性の中に一人男性がぽっと入ることによって職場の中の雰囲気を変えてもらいたい思いはあります。さっき久田先生が言いはったように、男性の前では女性は違う表現ていうか、行動する場合があるんです。例えば、女性だけやったら、ぐちゃぐちゃやーやーゆうて、派閥はできるわ睨み合いはするわ嫌がらせはするわ。一人男性が入ることによってちょっとおとなしくなるっていうのは多々あることなんですよ。それが男性が入ることによって、別に男性が何かするわけでないけどそこにいてるというだけで職場の雰囲気が変わる。経営者側としては、そこを要求していく人もおるやろし、ましてやその次に要求されるのはその中のドロドロしたところを変えて欲しいなみたいな人もあるやろし。

だけどそれは経営者側が考えることであって、実際の現場の人間関係は、大変なことになってるから、あんまり無理せずに自分のペースで人につきあっていくっていうふうですよ。女性でしたら、基本的にあんまり人の悪口を言わないようにするとか。誰々さんが、ばーっとやってきて、

何々やでーと言っても、ああそうですかって聞き流しとく。そうやねえって一緒になって言うところ側も下手をすると嫌われる。そのへんはやっぱ注意したほうがええやろね。例えば、今いてる学校でもそういうこと学べると思うんです。女性って怖いっしょ？ 男性の場合はね、嫌いやったらそれで済むけど、女性はそうはいかないから。

## 5 ワークショップ企画を終えて

今回の企画は、在学生や卒業生の就職や職業継続の意欲向上をもたらしただけでなく、学生や卒業生には現役保育者の方々と接する機会が少ないために就職や職業継続に関する悩みを抱えていてもそれを克服する術がないことを顕著にさせた。それは、今回の学生参加者による「ぜひ多くの学生にも話しをしていただきたい」「少人数でじっくり深く話せる機会があつてよかった」という声にも表れている。この企画が単なる講演ではなくワークショップ形式をとっていたために、参加した在学生や卒業生にとって大きな刺激になったことが分かった。

保育者をめざす在学生や保育者として働く卒業生にとっての悩みは、保育技術に関することだけでなく、同僚の女性との人間関係についてや生計を立てていくこと等、多岐に渡っている。学生が求めているのは、保育に関する知識やスキルを高めることだけではなく、保育職をめぐる状況や幅広い視野をもった保育者に関する知識を得ることではないだろうか。それが保育者養成校としてよりよい人材を育てるために必要だと考えられる。

## 注

- 1) 「男性保育者」とは、1977年に男性が児童福祉施設で保母に準ずる資格を取得できるようになってから1999年まで、男性従事者には職名がなかった時代に、保育所をはじめとする児童福祉施設で働く男性が用いた通称である。現在、保育士資格をもって働く男性は「保育士」と称することができる。そのため狭義に解釈すると、「男性保育者」とは保育士資格をもって働く男性ということになる。だが広義に

解釈すると、「男性保育者」は男性幼稚園教諭などの保育職に従事する男性すべてを含む。たとえば一部の市町村では保育士資格と幼稚園教諭免許というふたつの取得を採用の条件としており、保育所、幼稚園、その他の児童福祉施設への異動もある。幼稚園教諭免許と保育士資格は管轄や内容が若干異なるが、その目的はともに「保育」である。

本稿では「男性保育者」を広義に解釈し、保育職に従事する男性すべてをさすことにする。同様に、保育職に従事する者すべてを「保育者」、保育職に従事する女性すべてを「女性保育者」とする。

#### [付記]

本企画は大阪男性保育者連絡会の全面的なご協力によって実現したものである。ここに記して謝辞を述べる。なお本企画は「地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成における可能性と将来展望に関する学際的基礎研究」（2003年度および2004年度に文部科学省・私立大学教育研究・高度化推進特別補助・学術研究推進特別経費）の一環として行われたことを付記する。

## 〔奈良佐保短期大学学生展幼児教育科企画〕 男性保育者の妄想と現実

## □プログラム

司 会 山本 優司〔奈良佐保短期大学在学学生 学生展学生実行委員〕

## 13:30～14:30 第Ⅰ部 パネル討論

- 13:30 基調講演 大阪男性保育者連絡会 八尾英隆（保育者経験 21年）
- 14:00 パネル討論 奈良佐保短期大学卒業生 幸元裕 井久保瞳  
奈良佐保短期大学在学学生 粕井拓矢 杉本久和奈 柳下健  
大阪男性保育者連絡会の方々
- 14:30 質疑応答 フロアーからの質疑応答

休憩

## 15:00～16:00 第Ⅱ部 グループワーク

3グループに分かれてさらなる討論や実践をします

実習に向けて・就職に向けて 保育実践・手遊び・絵本・うた・ 職場の人間関係

## □男性保育者とは

保育所や幼稚園などで資格を持って働く男性のことです。ですが昔は男性保育士をさす言葉でもありました。

1977年まで、男性従事者には保育所などで働く資格がありませんでした。また、男性が「保母に準ずる」という資格を取得できるようになった1977年から1999年まで、男性には職名がありませんでした。当時「保母」という職名がありましたが、この職名を名乗れるのは女性に限られていたからです。もちろん「保父」というのも正式名称ではありません。そのため1999年に「保育士」という男女共通名称ができるまで男性が用いたのは「男性保育者」という通称でした。

## □全国男性保育者連絡会(全国男保連)とは

北海道から沖縄まで、各地にある男性保育者の連絡組織です。宗教色や政治色のない、会員制を取らない会で、男性に「保母」と同等の資格がなかった頃に、資格取得と交流、保育職の地位向上をめざすために組織されました。奈良県に男保連組織はありませんが、関西では、京都、兵庫、滋賀、大阪にあります。

2005年8月には滋賀で全国集会有ります。

第13回全国男性保育者研究交流集会  
語り合おう保育を！

なくそう 一人ぼっちの保育者を！

2005年8月27日(土)・28日(日)

グリーンパーク思い出の森

(滋賀県高島郡朽木村)

## □〔資料〕 男性保育者の状況

現在、全国の男性保育士は保育士全体の男性幼稚園教諭全体の1.29%（図1参照 国勢調査による 男性幼稚園教諭は6.9%）。他方、現在奈良県内の保育所に勤務する男性保育士の割合は保育士全体の2%（図3参照）。全国の約2倍です。

図1 男性保育士(保母)の人数と比率

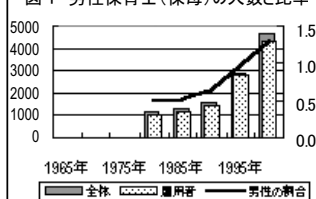


図2 男性幼稚園教諭の人数と比率

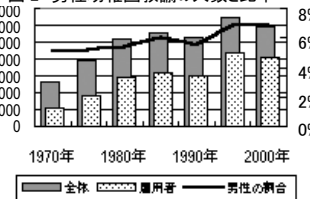


図3 奈良県の男性保育士(年代と男女比)

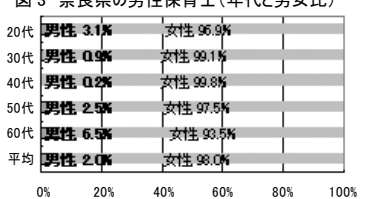


表1.奈良県の男性保育士(常勤)の勤務状況

|             |        |          |
|-------------|--------|----------|
| 現在勤務(N=20)  | 22.00% | } 勤務有とする |
| 過去に勤務(N=11) | 12.10% |          |
| 勤務なし(N=60)  | 65.90% |          |
|             |        | } 勤務無とする |

表2.所在地と男性保育士の勤務

|       | 市部(N=59) | 郡部(N=32) | 合計(N=61) |
|-------|----------|----------|----------|
| 男性勤務有 | 47.50%   | 9.40%    | 34.10%   |
| 男性勤務無 | 52.50%   | 90.60%   | 65.90%   |

表3.設置主体と男性保育士の勤務

| 公設公営(N=64) | 公設民営(N=4) | 民設民営(N=19) |
|------------|-----------|------------|
| 29.20%     | 50.00%    | 47.40%     |
| 70.80%     | 500%      | 52.60%     |

奈良県保育所のデータは「地域の子育て環境づくりに向けての保育者養成における可能性と将来展望に関する学際的基础研究」（研究代表 奈良佐保短期大学 前迫ゆり）の一環として2004年文部科学省私学高等教育研究助成（学術研究高度化推進経費）をうけて実施された質問紙調査の結果に基づいたものである。

図4 奈良県の男性保育士(年代と就業形態)

